

審議会会議録

1 会議の名称	平成26年度第2回富津市次世代育成支援行動計画推進 会議
2 開催日時	平成27年3月13日 午後2時～午後3時20分
3 開催場所	富津市役所401会議室
4 審議等事項	(1) 富津市次世代育成支援行動計画(後期)のまとめに ついて
5 出席者名	委員 竹内好美、渡辺務、塚田真澄、中村和博(三谷委員代理)、 渡邊俊昭、山寄豊、平井良実、坂部充洋、白井克典、石渡衛、 岡田和夫、鈴木千鶴子、榎本信弘、諏訪智子、吉原久美 事務局 前沢健康福祉部長、白石子育て支援課長、今井学校教育課長、 茂木子ども家庭係長、小野田保育係長、渡邊主任主事、健康 づくり課上野保健師
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	0 人(定員5人)
9 所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

平成26年度富津市次世代育成支援行動計画推進会議議録

発言者	発言内容
事務局・茂木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
渡辺委員長	<p>2 委員長挨拶</p>
佐久間市長	<p>3 市長挨拶 (市長退席)</p>
事務局・茂木	<p><会議の成立について></p> <p>本日の出席者は15名で、過半数を超えております。 よって、次世代育成支援行動計画推進会議設置要綱第6条第2項の規定により、本日の会議は成立いたします。</p>
事務局・茂木	<p><会議の公開について></p> <p>この会議は、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議を公開することとなっておりますが、本日の傍聴人は、おりません。</p> <p>議事進行は、渡辺委員長にお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議録署名人 <p>議題に入る前に本日の会議録署名人を指名いたします。本日の会議録署名人は、岡田委員を指名します。</p> <p>4 議題</p> <p><(1) 富津市次世代育成支援行動計画(後期)のまとめについて></p>

事務局・白石	<p>議題（１）富津市次世代育成支援行動計画（後期）のまとめについてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p> <p>富津市次世代育成支援行動計画（後期）報告書について説明</p>
渡辺委員長	<p>○質疑・意見</p> <p>複合施設についてですが、資料の中で複合施設の整備基本計画を基本に進めてきたが、計画を先送りすることとなったとあります。これは、今後子ども・子育て支援事業計画に引き継ぐことだと思いますが、その中の複合施設の位置づけというものは、はっきりしないままでよいのかと思いました。</p> <p>複合施設の計画はあるので、それを先送りして残しながら、だけでも、子ども・子育ての計画の中では、子育て支援センターとかの計画を検討していくというように取れるのですが、事務局の考えを聞かせてください。</p>
事務局・白石	<p>複合施設については、資料にあるように先送りとなっており、どうなるかはっきりしておりません。現状では、複合施設の中で子育て支援センターのようなものは予定が立ちませんので、事務局としては、子ども・子育て支援事業計画の中で、場所の選定等はこれから既存の施設の利用等を考えていきますが、利用者支援事業や地域子育て支援センター事業を計画期間中に開設を目指していきたいと考えています。</p>
渡辺委員長	<p>現時点では、複合施設というのは、道筋が見えてこないなので地域子育て支援センター等の充実をさせるという方向へ比重を置いていくという捉え方でよろしい</p>

事務局・白石 渡辺委員長	<p>でしょうか。</p> <p>その通りです。</p> <p>他に質疑等はございますか。</p> <p>特になければ、議題については、以上といたします。</p> <p>5 報告</p> <p>< (1) 富津市子ども・子育て支援事業計画について ></p>
渡辺委員長	<p>次に報告 (1) 富津市子ども・子育て支援事業計画について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局・白石	<p>富津市子ども・子育て支援事業計画 (案) について説明</p>
鈴木副委員長	<p>○質疑・意見</p> <p>私は、前期の計画の事業計画の策定の段階から関わらせていただいて、前期・後期通して、今回最後になるということで役割を果たせたか不安ではあります。ですが、次にこの計画が子ども・子育て支援事業計画と子ども・子育て会議の方へ移行されるということで安心をしています。</p> <p>そこで、子ども・子育ての支援を継続的されるということの中でお願いです。事前にいただいた資料の中でもありました早期療育等支援、幼保小との連携や障がい児保育などの障がいを持っているお子さんやその家庭を支援という事業が、ずいぶん充実されてきているのを感じます。私も障がい者に係る富津市障害者総合支援協議会の中で子ども部会の役を担わせていただいておりますが、こうした支援が普通に充実されている</p>

だけでなく、継続され今後さらに発展することを期待しています。

そのためには、子ども・子育て会議の委員として、障がいを持っている子どもに関わる団体、その保護者や障がいをもっている子ども達や家庭を支えることのできる方を参加させてもらえれば良いと思います。それが今後さらにこのことが充実していくのではないかと思います。

富津市障害者総合支援協議会の中の子ども部会にペアレント・メンターという方がいます。この方は、全国の自閉症協会の中で養成している人達で、小学校5年生以上の障がいを持っているお子さんを育てられた経験をもつ親が、同じような悩みを抱えている方たちや家族を支援していく、相談役になるという仕組みのものです。これは、誰でもなれるわけではなく、障がいに理解があり、自分の子育て経験をもとに同じような悩みの方たちを支える力がある方達を養成するものです。千葉県内で34名おり、だいたい50代、60代の方たちですが、その内富津市に3名います。これは、今後養成を拡大していく計画はないそうです。今十分に活動できるメンバーが富津市にいますので、そういう方たちを委員に入れていただくとか、社会福祉協議会にボランティア登録されている方たちもいますが、そういう地域の方々が委員として入るということをしていただけたら、富津市の子育て支援の中に障がいを持っている子ども達、家庭を支援する仕組みが充実されていくのではないかと思います。

実際、子ども部会の中で交流会等、色々な活動をしています。近隣市の中で富津市が一番充実していま

事務局・白石	<p>すので、子ども・子育て会議の中でこのような経験のある方を委員として位置付けていただけたらいいなと思います。</p> <p>子ども・子育て会議の委員については、今の委員の任期が今年の11月までとなっていますので、その際に検討をしていきたいと思っています。</p>
渡辺委員長	<p>< (2) 学校ボランティア制度について ></p> <p>次に報告 (2) 学校ボランティア制度について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局・今井	<p>平成26年7月18日開催の平成26年度次世代育成支援行動計画推進会議にてご質問のありました「学校ボランティア」について木更津市・君津市・袖ヶ浦市の状況、本市の状況今後の方向性の3点についてご説明いたします。</p> <p>まず、はじめに木更津市・君津市・袖ヶ浦市の状況についてご説明いたします。</p> <p>木更津市では、平成10年度より学校支援ボランティア活動推進事業を教育委員会内にある学び支援センターを中心に実施しております。</p> <p>具体的な活動としては、花壇整備、校庭整備(除草)、生け花、図書整備、小破修理、トイレ清掃等の「環境整備支援」、読み聞かせ、英語活動、家庭科・音楽科・書写・茶華道・武道・部活動指導補助等の「教育活動支援」、安全・防犯パトロール、登下校の見守り・引率、プール・向寒マラソン安全巡視等の「安全支援」の3つの領域と児童生徒が行うボランティア、HP作成・管理等などを実施しております。</p> <p>募集及び登録は、教育委員会、学校、公民館のいず</p>

れかで、申請書に必要事項を記入の上登録し、活動希望地域は、「市内全域」「学校限定」の2種類から選択できることになっております。登録と同時に「ボランティア活動保険」に加入することとなります。登録期間は1年で毎年更新することとなっております。

教育委員会は、「学校支援ボランティア登録リスト」を作成し、各学校に配布しております。

各学校では、校務分掌上に「学校支援ボランティア担当者」を位置付け、教育実践に様々な形で位置づけております。また、活動は、無償となっておりますが、教育委員会から配布された予算で、飲料品等を供し、お礼に代えています。ボランティアがその活動中に事故が起きた場合には、教育委員会で加入した保険で対応することとなっております。

教育委員会は、学校支援ボランティア活動推進委員会を設置し、活動の推進と充実を図るとともに、各学校の学校支援ボランティア担当者及び学校支援ボランティア・コーディネーターを対象に、研修会を年3回実施しております。また、学校間の情報交換、市内全域への学校支援ボランティア活動の啓発を目的として、年1回「学校支援ボランティア交流集会」を実施しております。

続いて、君津市の状況ですが、君津市では、君津市さわやかスクールボランティア事業として、君津市教育センターで事業を行っております。具体的な活動内容は、木更津市と同様ですが、募集については、各学校が必要としているボランティアを各学校で募集し登録します。従って、その運営は原則として各学校によって任せられています。

各学校では、校務分掌上に「学校支援ボランティア

担当者」を位置付け、教育実践にボランティア活動を様々な形で位置づけております。また、活動は、無償となっておりますが、予算の範囲内でボランティアに参加していただいた方々にお礼として物品をお渡ししています。スクールボランティアがその活動中に事故が起きた場合には、君津市市民活動災害補償制度要綱で対応することとなっております。

袖ヶ浦市についても、学校の活動をサポートする保護者や地域、団体、企業などを学校支援ボランティアとして募集していますが、申し込みは各学校になっております。

2点目に、本市の状況についてご説明いたします。

本市では、市民の多様化する生涯学習への要求に応えるために、様々な分野で活躍している人々や、優れた知識や技術を有している人々をボランティアとして、市民の生涯学習活動を援助してもらうことにより、その成果をまちづくりへ活かすことを目的とする富津市人材バンク「まちの先生」事業を生涯学習課で実施しており115人の方が登録されています。この方々については、富津市生涯学習情報誌に登録者名簿が掲載されております。この情報誌は、各家庭や小中学校に4月当初に届けられますので、各学校の教育ニーズに応じた支援を依頼しており、利用状況は、学校外を含めて80件です。活動は、原則として無償となっておりますが、お世話になった子どもたちがお礼の手紙などを届けるなどの対応をしている学校もあります。ボランティアがその活動中に事故が起きた場合には、市民活動災害補償で対応することとなっております。

また、富津市社会福祉協議会の協力団体である富津市ボランティア連絡協議会にも、62団体約1,40

0名のボランティアの方が活動しておりますが、そのうち8団体、約480人の方々が学校ボランティアとして活動していただいております。

続いて、本市の学校教育における具体的なボランティア活動としては、他市と同様に「環境整備支援」、「教育活動支援」、「安全支援」の3つの領域とその他の活動の4つに大別されます。

ボランティア活動として一番多いのが子どもの安全確保です。PTA活動として、立しろう当番にご協力いただいている方を除いても、「防犯見守り隊」による登下校時の見守り、低学年が行う生活科での学区探検における安全確保、交通安全教室での補助等にご協力いただいている方が400名以上おります。

続いて、生活科や総合的な学習の時間の中で、専門的な知識を活かして講師をしていただいている方が、9校で130名ほどおります。具体的な学習内容としては、昔遊び体験、稲・サツマイモ栽培などの農業体験、太巻き寿司づくり、海苔すき体験、人権教育や福祉教育の講師など多岐にわたっております。生涯学習推進大会で関豊小学校の子どもたちが演奏した三味線についても、外部のボランティア講師による専門的な指導によるものであったことは記憶に新しいことと思います。

続いて多いのが、図書の整理や読み聞かせで市内10校の小中学校で、85名近くの方に、朝の読書の時間、昼休み、授業時間などで様々な活動を通して子どもたちの読書習慣の定着のためにご支援いただいております。

また、花壇や樹木の整備等の校内外の環境整備につきましても、5校172名の方のご協力をいただいて

おります。

平成26年度に、市内の小中学校でボランティアとして活動をしていただいた方々の延べ人数は、811名となっております。これは、同年度の君津市の登録延べ人数の776名、木更津市の1,871名、袖ヶ浦市の735名と比較しても学校ボランティアの活動状況は遜色ないものであると考えております。

学校ボランティアは、学校のニーズに応じて様々なものがあり、そのレベルもある程度の専門性が必要なものから、特段の資格や経験等がなくてもできるものまで幅があります。

そこで各学校では、ボランティアへ協力について次のような方法で依頼をしています。

まず、一つめは、直接依頼をする方法です。

これは、子どもたちの学習にボランティアをお願いするときに、学校から直接依頼をするものです。各学校は、地域の特色や児童の実態からその学校の教育活動を行っていますので、どのような学習でどのようなボランティアを依頼すればよいかというノウハウを持っていますので、単年度ではなく継続的にボランティアをお願いしていることが多いようです。学校便りやホームページで、広く保護者や学区の方々に協力を依頼することもあります。さらに、学区の区長さんや有識者から情報を得て、協力を依頼することもあります。

「まちの先生」に登録している方への依頼や富津市ボランティア連絡協議会への依頼については、登録者が元々各学校でボランティアをしていた方であることから登録前から継続的に取り組んでいる方々であり、新規に依頼することは少ないようです。

最後になりましたが、今後の方向性についてご説明

いたします。

まず、学校支援ボランティアは、子どもたちの健やかな成長のため自分にできることを、できる時にしようとする意欲を持っている方々であると認識しております。

また、学校支援ボランティアは、学校を主たる拠点に活動するボランティアであることは間違いありませんが、学校支援ボランティアが特別なボランティア活動ではなく、あくまで地域で行われるボランティア活動の一環です。

地域では、これまで既に様々なボランティア活動の実践の蓄積があり、それを基礎に、その延長線か発展型として学校支援ボランティアへのご協力をいただくと考えるほうが、「敷居の高さ」や「近づきがたさ」を指摘される学校への支援活動に対する理解が促進され、取り組みやすくなるのではないかと考えております。

以上のことから、教育委員会としては、新たに学校支援ボランティア制度を始めるのではなく、これまでの各学校における学校支援ボランティアの蓄積を大切にしながら、富津市人材バンク「まちの先生」事業や富津市ボランティア連絡協議会の取り組みについて充実して参りたいと思います。

具体的には、HPや広報・教育かわら版などにより事業の周知に努め意欲のある市民の方々により多くボランティア活動に参加していただく、学校ごとに活動していただいているボランティアについても「まちの先生」や富津市ボランティア連絡協議会に登録していくなどの取り組みを、生涯学習課・社会福祉協議会・学校が連携しながら行っていききたいと思います。

鈴木副委員長	<p>学校支援ボランティアは、子どもたちの健やかな成長のためには、すべてを学校任せにするのではなく、学校・家庭・地域の協働が不可欠であるという基本的な考え方に基づく活動であり、それは学校のためだけでなく、何よりも子どもたちのためであり、またボランティア自身と地域のためでもあることなどをご理解していただき、今後も、みなさまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>○質疑・意見</p> <p>私もボランティア団体に登録し活動していますが、社会福祉協議会の会長が昨年の総会の時に老人には「きょういく」が大事であるという話をしました。「きょういく」というのは、教え育てることではなく、「今日行くところがある」ということが大事であるということでした。年齢が高くなった人たちで、余力がある人が家でこもっているのではなくて、今日行くところがある、ボランティアや地域の集まりやゲートボールでも行くところがあるというのは大事なことだと話をしていました。現実、ボランティア団体の人達、浜昼顔を育てている人たちや地域の安全を確保しましょうという活動されている人たちは、高齢化していて、次に続く人たちがいないというのが悩みとなっています。</p> <p>読み聞かせなどの教育的な活動の補助は、子育ての現役の親御さんたちがやって下さっている方が多いかなと思います。我が子のために、地域の子ども達のために、母校のためになどのことだと思います。</p> <p>今の説明を聞いて地域の環境とか安全などのためというのは、地域の方々がやってくださっているという</p>
--------	---

事務局・今井	<p>のが本当にわかりました。学校は、情報提供するだけじゃなくて、地域の人達を巻き込んでいく、積極的に活用するということができたなら、教育的なことでもボランティアしている方が、高齢になったときに地域のために働いてくれるというように循環できるかなと思います。また、学校は、活用する、活用した実績を増やして欲しいなと思います。情報発信だけで止まってないで欲しいなということを希望します。</p> <p>確かに鈴木委員が言われたように、各学校で実践に携わる方々については、年齢構成が高いことは認識しております。また、専門的な知識を有する方についてもだんだん高齢化していて、例えば昔遊び体験を継続的に実施しているところでは、「高齢だから今年は出来ない」と言われると次につなげる方がなかなかみつからないということがあります。そういうときに地域の方々の情報の中で区長さんなどから紹介していただいて、次につないでいくなど、学校としてもそういう地道な努力をしている状況です。</p> <p>学校で学習の一環で落語を取り組んでいるところで、学校の枝切り等の環境ボランティアの人に聞いてもらいたいと寄席を企画し、好評だったことがあります。そういった子どもたちの学習の様子をボランティアの方々に紹介することも、ボランティアを増やしていく方法かなと思いました。それぞれの学校がそういったことでいろいろ取り組み、ボランティアの方を学校にお招きし、学校の教育活動を理解していただき、また、学校の応援者になっていただくような取組みを今後も続けて行きたいと考えております。</p>
渡辺委員長	<p>説明の中で教育かわら版などの話がありました。今の話ですと、事業の継続性をどうやって担保していく</p>

<p>石渡委員</p>	<p>かが問題になると思いますが、鈴木副委員長が言うように周りの人を巻き込んで、こんな人がいるよと情報を発信していき、取り込んでいくということが必要だと思います。その中で学校としての情報発信の方法について、伺いたいのですが、学校ごとにホームページを作ってらっしゃると思いますが、その辺の実態や悩んでいるところ、現状を教えてくださいなのですが。</p> <p>石渡委員いかがですが。</p> <p>小学校ですと職員が忙しい中で、頻繁にホームページの更新に手が回らず、発信が少ないのかなというのが現状です。ただ、地域とのつながりをいろんなところで深く持っていますので、ホームページ等を使わなくても、関係団体との会合など色々なつながりの中で、学校が取り組んでいることを発信していけば、非常に協力してくれています。ですから、ホームページというよりも、色々な会合が地域でありますので、そのなかの意見交換の中で伝えて行ける方が良いのかなと思います。</p>
<p>事務局・今井</p>	<p>継続性の話ですが、これはやっぱりボランティアと学校のニーズとの関係の中で継続性というのは密接に関係してくると思います。</p> <p>各学校では言語活動に力を入れており、例えば読書習慣を学校としては身に付させたいとすると、そのためには、外部の講師、ボランティアの方も含めてそういう機会をたくさん子どもたちに触れさせたいということがあります。そのようなニーズから読書ボランティアという方々への協力をお願いというのは、今後、学校の必要感からも学校から積極的に働きかけなければいけないと思います。地域の中でも学校からお願いされているのだから、もっと広げていこうという話に</p>

渡辺委員長	<p>なっていけばありがたいと思います。</p> <p>昔遊び体験や海苔すき体験などは、総合的な学習の時間に展開する学習活動ですが、各学校は特色ある学校づくりの一環として、地域を学ぶ、地域で学ぶという学習を展開しております。そういう中では、地域のボランティアの方々に入っていて、学習を支えていくというものも必要になってきます。こうした継続性を学校の教育活動の中で一緒になってくるものは、今後も引き続き行われていくのではないかと認識しております。</p> <p>是非、地域の根ざした活動を継続的にしていただきたいと思います。</p> <p>以上で、平成26年度第2回富津市次世代育成支援行動計画推進会議を終了いたします。</p> <p>委員の皆様には、長年にわたりご協力いただき、本当にありがとうございました。</p> <p>閉会</p>
-------	--